

授業科目名 <英訳>	民俗学Ⅰ Folklore Studies I		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 助教 菊地 暁			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2017・前期	曜時限	水4	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
民俗とは、普通の人々が日々の生活のなかから創り上げ、受け伝えてきたコトバ、モノ、ワザといったものの総体である。そして民俗学とは、そのような民俗を、文献には決して書き残されることのない普通の人々の歴史を探る糸口として発見した学問である。本講義は、民俗学の目的と方法を、その創始者・柳田国男（1875 - 1962）の学問的生涯に即して概略した上で、衣食住、経済生活、社会集団、等々の個別分野を論じる予定である。							
【到達目標】							
民俗学の基本的な考え方と初歩的な実践方法を理解する。							
【授業計画と内容】							
1．使用上の注意 2．柳田国男の生涯 3．民俗学の方法 4．たべる - 食 - 5．すむ - 住 - 6．きる - 衣 - 7．生活史作成の注意 1 8．はたらく - 生産・生業 - 9．はこぶ - 交通・運輸 - 10．とにかえる - 交換・交易 - 11．生活史作成の注意 2 12．つどう 1 - 血縁 - 13．つどう 2 - 地縁 - 14．つどう 3 - 社縁 - 15．まとめ（フィードバック）							
【履修要件】							
人生儀礼、祭礼芸能、口頭伝承を扱う「民俗学」は来年度開講の予定である。							
【成績評価の方法・観点及び達成度】							
授業中に課すミニ・レポート（40点配点）および期末レポート（60点配点）によって評価する。							
【教科書】							
使用しない							
----- 民俗学Ⅰ(2)へ続く -----							

民俗学Ⅰ(2)

[参考書等]

(参考書)

菊地暁 『柳田国男と民俗学の近代 奥能登のアエノコトの二十世紀』(吉川弘文館)

菊地暁(編) 『身体論のすすめ』(丸善)

高取正男 『日本的思考の原型』(講談社現代新書)

授業中に随時紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

講義内容を踏まえたミニ・レポート課題を10回程度実施する。課題内容は講義中に指示する。

[その他(オフィスアワー等)]

民俗学とは、どこまでも具体的な事実の積み重ねから、私たちの日々の現実を成り立たせている歴史的＝社会的な関係のありかたを考え、そうした関係とともにある私たち自身について考える学問である。したがって、取り扱う対象は限りがない。知的好奇心の旺盛な受講生を歓迎する。